

一般廃棄物処理基本計画に係る目標の進捗状況等について

1. 目標の進捗状況

一般廃棄物処理基本計画（令和3年度～12年度）においては、①ごみ総量、②1人1日当たりの家庭ごみ排出量、③最終処分量、④家庭ごみに占める資源物の割合の4つの目標を掲げており、令和4年度の実績は、次のとおりである。

(1) ごみ総量等

(単位:トン)

	R元年度 (基準値)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	R4年度		R7年度 中間目標	R12年度 最終目標
				実績	前年度比		
①ごみ総量	373,373	363,336	361,199	358,583	▲0.7%	350,000	330,000
生活ごみ	234,235	240,647	238,107	232,645	▲2.3%	220,000	210,000
家庭ごみ	184,794	188,759	186,169	181,921	▲2.3%	172,300	158,000
缶・びん・ペットボトル等	20,621	21,906	21,914	21,581	▲1.5%	21,000	22,000
プラスチック製容器包装	12,616	13,181	13,162	12,860	▲2.3%	12,500	14,000
紙類定期回収	11,347	11,842	11,806	11,403	▲3.4%	10,000	12,000
粗大ごみ等	4,857	4,959	5,056	4,880	▲3.5%	4,200	4,000
事業ごみ	139,138	122,689	123,092	125,938	2.3%	130,000	120,000
②1人1日当たりの 家庭ごみ排出量(g)	463	471	465	453	▲2.6%	430	400
③最終処分量	51,662	49,993	47,379	48,637	2.7%	49,000	46,000
推計人口(10月1日現在)	1,090,263	1,097,196	1,097,237	1,099,239	—	1,098,000	1,097,000

- 令和4年度のごみ総量は、前年度比0.7%減の358,583トンとなった。人口が増加しているにもかかわらず、減少傾向となっている。

内訳では、生活ごみが前年度比で2.3%減少する一方で、事業ごみが2.3%増加しており、コロナ禍による行動自粛の緩和等の影響が見られる。

- 1人1日当たりの家庭ごみ排出量は453グラムとなり、前年度に比べて12グラム減少した。
- 最終処分量は、焼却灰の増加により前年度に比べて2.7%増となったものの、既に中間目標値を達成している。焼却灰の増加は、工場の整備等により令和3年度の焼却量を抑制したことから、令和4年度の焼却量が前年度を上回ったことによるもの。

(2) 家庭ごみに占める資源物の割合

(単位:%)

	R元年度 (基準年度)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	R4年度		R7年度 中間目標	R12年度 最終目標
				実績	前年度比		
④資源物	42.5	41.3	42.0	41.9	▲0.1pt	35.0	30.0
紙類	23.7	22.6	21.3	22.7	1.4pt	—	—
プラスチック製容器包装	9.8	10.0	11.0	10.7	▲0.3pt	—	—
布類	7.4	7.4	7.5	7.0	▲0.5pt	—	—
缶・びん等	1.6	1.3	2.2	1.5	▲0.7pt	—	—
生ごみ	32.5	30.0	35.4	30.7	▲4.7pt	—	—
その他	25.0	28.7	22.6	27.4	4.8pt	—	—

※ 毎月1回、清掃工場において家庭ごみ袋を抽出し開封調査した結果による(数値は年間平均値)

- 令和4年度の家庭ごみに占める資源物の割合は、前年度比0.1ポイント減の41.9%となっている。内訳では、紙類がやや増加し、プラスチック製容器包装などは減少している。
- 令和7年度の間目標値とは乖離が大きいことから、4月から実施している製品プラスチック分別収集の機会を捉え、一層の分別徹底に取り組む必要がある。

2. 家庭ごみ等排出実態調査

家庭からの食品ロス量を把握するため、令和4年12月に5地区(各区1か所)を対象に、家庭ごみ袋の開封調査を実施した。また、併せてごみの組成変化を把握するため、プラスチック製容器包装及び事業ごみ(可燃)についても開封調査を実施した。

(1) 生ごみに占める食品ロスの割合

(単位:%)

	R元年度 (基準年度)	R3年度 (実績)	R4年度	
			実績	前年度比
食品ロス	34.5	20.5	18.5	▲2.0pt
全く手付かず(残存100%)	17.0	8.7	6.0	▲2.7pt
ほとんど手付かず(50%以上)	4.5	1.7	2.9	1.2pt
一定程度手付かず(50%未満)	1.9	2.7	1.1	▲1.6pt
食べ残し等	11.1	7.4	8.5	1.1pt
調理くず	62.7	75.5	78.1	2.6pt
その他(茶殻等)	2.8	4.0	3.4	▲0.6pt

- 令和4年度の生ごみに占める食品ロスの割合は18.5%と、令和3年度に比べて2.0ポイント減少した。基準年度である令和元年度に比べて大きく減少した状況が続いている。

(2) プラスチック製容器包装の組成

(単位:%)

		R元年度	R3年度	R4年度(前年度比)	
プラスチック製容器包装	食用容器	29.1	32.2	31.1	(▲1.1pt)
	菓子袋等	24.9	31.8	32.7	(0.9pt)
	シャンプー・洗剤等容器	5.3	10.9	6.0	(▲4.9pt)
	飲料用容器	3.2	1.1	1.9	(0.8pt)
	発泡トレイ(白色)	2.3	0.9	1.3	(0.4pt)
	トレイ(白色以外、プラスチック製トレイ等)	3.4	2.3	1.4	(▲0.9pt)
	トレイのラップ、タバコの包装等	9.4	0.9	9.2	(8.3pt)
	保護材・緩衝材等	1.4	2.0	0.9	(▲1.1pt)
	レジ袋	2.6	1.6	1.0	(▲0.6pt)
	その他PET製ボトル類(食用油等)	1.2	0.1	0.4	(0.3pt)
製品プラスチック		5.1	7.7	2.8	(▲4.9pt)
仙台市指定袋		3.3	3.9	3.5	(▲0.4pt)
ペットボトル		1.5	1.2	1.7	(0.5pt)
プラスチック以外のもの(生ごみ、金属等)		7.3	3.4	6.1	(2.7pt)

- 令和4年度は、「菓子袋等」が32.7%と最も多く、次いで「食用容器」が31.1%と多く、令和3年度と同様に、この2つで全体の約6割を占める。
- 「製品プラスチック」については、前年度に比べて4.9ポイント減少した。

(3) 事業ごみ(可燃)の組成

(単位:%)

	R元年度	R4年度(前回比)	
厨芥類	25.2	15.9	(▲9.3pt)
リサイクル可能な紙類	19.5	14.4	(▲5.1pt)
プラスチック	13.9	22.7	(8.8pt)
ペットボトル	0.5	0.6	(0.1pt)
金属類	1.9	1.1	(▲0.8pt)
その他	39.0	45.3	(6.3pt)

- 令和4年度は、プラスチックが22.7%と最も多く、前回調査した令和元年度に比べて8.8ポイント増加している。
- 厨芥類、リサイクル可能な紙類は、令和元年度に比べて、それぞれ9.3ポイント、5.1ポイント減少している。